

令和5年度 第3回公共事業評価委員会にかかる用語集

令和5年9月12日 鳥取県会計管理部工事検査課

用語	解説
【共通用語】	
① 費用便益比 (B/C)	B/C：Benefit/Costの略。公共事業の効果を金銭に置き換えて、その妥当性を評価するための指標をいう。ある事業において、要した費用の総計に対する発生した便益の総計の比率であり、その値が1以上であれば、総便益が総費用より大きいことから、その事業は妥当なものと評価される。 現在、日本においては、国土交通省の「費用便益分析マニュアル」、農林水産省の「土地改良事業の費用対効果分析マニュアル」を基に算定されている。 一般に費用便益比は、道路整備や防災対策、交通機関、市街地再開発などの公共事業の採択時や途中段階の評価を行う際に参照する指標とされている。
② 国庫補助事業	特定の施設整備に対する補助事業であり、補助金を他用途等で使用した場合には罰則が科せられるなど、法律により適正な予算執行が求められ、地方公共団体によるメニュー変更等の裁量は許されていない。
③ 交付金事業	地方公共団体により、地域が抱える政策課題を基に目標を設定し作成された整備計画に対し、国費が配分され実施される事業。地方公共団体の裁量で、当該計画内の事業間（例：道路、河川等の事業）、年度間での流用が可能である。
④ 週休2日モデル工事	工事現場の週休2日を確保することを目的とし、ほぼすべての県発注工事を対象とした建設産業における担い手確保対策の一つ。実際に現場の実績が週休2日を満足している場合は、工事の経費に補正計数を乗じて計上する。
【農業・農業土木用語】	
⑤ 畑地かんがい	作物の栽培に必要な水を、畑地へ人為的に供給すること。作物自身の生育に必要な水だけではなく、凍霜害防止や冷害防止等の生育環境を整えるための水や、定植、施肥、防除等、栽培管理作業を容易・効率的にするための水も含まれる。かんがいは一般に多数の受益者の共同的な取水、送水、配水によって行われるので、適切な施設の建設と管理が重要。
⑥ 末端整備 (畑地かんがい)	畑地1筆ごとに整備を行う、個人給水栓及び散水施設（移動式スプリンクラー、散水チューブなど）。
⑦ 給水栓 (畑地かんがい)	地下に埋設した配水管から立ち上がり管を接続して、かんがい用水を取り出す施設。畑地ごとに設置する「個人給水栓」と、複数の農家が共同で使用する「共同給水栓」がある。
⑧ 農道	主に農業上の利用に供する道路。農業用道路の略称。農村地域における農業生産基盤および社会生活基盤としての役割を併せ持っている。
⑨ 定植	植物を苗床から畑に移して最終の場所に植えること。
⑩ 施肥	栽培する植物に肥料を与えること。
⑪ 防除	農作物を病害や虫害から防ぎ、それを駆除すること。

	用語	解説
⑫	酪農	牛などを飼育し、乳や乳製品を生産する農業の形態。
⑬	土地改良区	1949年に制定された土地改良法によりできた、農業を営む人たちの組織（法人）。ほ場（田んぼ）整備をしたり、農業用ため池や水路などの土地改良施設の維持管理を行っている。
	【林道関係用語】	
⑭	下刈	植栽木の速やかで健全な成長を促すため周囲の雑草木を刈り払うことをいう。
⑮	除伐	植栽木の成長に影響を及ぼす他の樹木の伐採や枯死させることをいう。
⑯	枝打ち	節のない材木を生産するために枝を切り落とすことをいう。
⑰	齢級	林齢を5年で括ったもの。1～5年生がⅠ齢級。6～10年生がⅡ齢級。
	【河川用語】	
⑱	水系	同じ流域内にある本川、支川、派川及びこれらに関連する湖沼を含めて「水系」という。
⑲	確率年	洪水時の発生頻度の表現方法の一つで、「何年に一度の割合で起こる洪水」というように使う。正確には1年のうちに発生する確率のことを指すが、便宜的に「何年に一度」という表現で使われる。（1/100→100年に1度 1/40→40年に一度）
⑳	築堤	河川の流水が河川外に流出することを防止するために堤防を築くことをいう。
㉑	ほうすい 放水路	河川の途中から新しく開削し、直接、海又は他の河川に放流する水路のこと。
㉒	右岸・左岸	河川を上流から下流に向かって眺めたとき、右側を右岸、左側を左岸という。
㉓	河道	流水を安全に流下させるための水の流れる部分。通常水が流れている低水路と、洪水の時だけ流れる高水敷に分けられる。
㉔	えっすい いっすい 越水・溢水	越水：増水した河川の水が、堤防の高さを越えてあふれ出す状態のことという。 溢水：無堤防の区間であふれ出す状態のことという。
㉕	破堤	増水した河川の堤防に越水、洗堀、浸食、浸透、亀裂、漏水などの作用が生じ、堤防が破壊されることをいう。
㉖	流量	単位時間内に流れる流水の体積を表す値で、単位は（m ³ /sec）。
㉗	余裕高・計画堤防高	堤防は一般的に土砂で造られていて、越流に対しては極めて弱いものである。このため堤防上の越水を防ぐために、洪水時の波浪、うねりなどの水位上昇に備えて、計画高水位に余裕高を加えた高さを計画堤防高としており、河川管理施設等構造令では、流量により余裕高が定められている。

	用語	解説
⑳	堤内地・堤外地	堤内地：堤防によって洪水氾濫から守られている住居や、農地のある土地のこと。 堤外地：堤防に挟まれて水が流れている土地のこと。
	【道路用語】	
㉑	地域高規格道路 →高規格道路	地域高規格道路は、高規格幹線道路網を補完し地域相互の交流促進等の役割を担う道路であり、地域の実情を踏まえながら、概ね60km/hの旅行速度の確保を目指して整備される道路のことを言う。 鳥取県内では、鳥取豊岡宮津自動車道（山陰近畿自動車道）のほか鳥取環状道路、北条湯原道路、江府三次道路が該当する。 ※近年、山陰道や米子道・鳥取道といった「高規格幹線道路」と「地域高規格道路」を一体的に新たな区分「高規格道路」と位置づけることとなった。
㉒	インターチェンジ （IC）	インターチェンジ（IC）とは、立体交差する道路相互間、または近接する道路相互間を連絡路によって立体的に接続する施設。一般的に本線車線と変速車線および連絡路から構成され、有料道路の場合には必要により料金所が併設されている。
㉓	ハーフインターチェンジ （ハーフIC）	ハーフインターチェンジ（ハーフIC）とは、高速道路のインターチェンジ（IC）（通常、上り線の入・出、下り線の入・出の4方向にアクセスできるもの）のうち、2方向にしかアクセスできないアクセス方向を制限されたインターチェンジ（IC）のこと。
㉔	道路交通センサス	道路交通センサスは、正式名称を「全国道路・街路交通情勢調査」と言い、日本全国の道路と道路交通の実態を把握し、道路の計画や、建設、管理などについての基礎資料を得ることを目的として、全国的に実施している統計調査である。概ね5年おきに実施されており、直近では令和3年に実施されている。（令和3年センサスの調査結果は取りまとめ中であり、令和4年8月時点で未公表）
㉕	事前通行規制区間	異常降雨時に落石や土砂崩れなどの危険性がある区間に対して、雨量に基づく基準をあらかじめ設定し、これに基づいて通行止めを行う区間のこと。
㉖	弾性波探査	地中を伝わる弾性波（振動）が性質の異なる物体の境界で屈折、反射して地中を伝播する状況を観測して、地下構造を調査するための手法。
㉗	地山分類	トンネルの地山の工学的諸性質を類型化して分類したもので、トンネル支保パターンへの設計に用いる。最も良い等級はAで、最も悪い等級はEである。さらに細かくCⅠ、CⅡ、DⅠ、DⅡ等に分類することもある。
㉘	トンネル支保	トンネル掘削時に、掘削面が崩れてこないように、主にアーチ状の鋼製材で支える仮設材のこと。掘削土質の状況に応じて、追加でボルトを施工したり、様々なパターンがある。
㉙	トンネル切羽	トンネル掘削の最先端箇所
㉚	ロックボルト	トンネル支保の材料の一つで、岩盤内の削孔した孔に差し込んで使用するボルト。トンネル掘削時に天端・側壁などの岩石が剥離、脱落しやすいような場合に、それをその点に存在する強固な岩盤に縫い付けるようにして脱落を防止するために用いられる。

	用語	解説
③⑨	インバートコンクリート	地盤が弱い箇所において、トンネル底面からの押し上げる圧力に耐えるため、底面にも逆アーチ形のコンクリート壁を打設するもの。
④⑩	鏡	トンネル掘削面のこと。トンネル切羽の俗称。
④⑪	トンネル補助工法	トンネル掘削時に、地山の強度不足等により、掘削断面の変形が生じる場合に、補助的工法として鋼管の打設、セメント及び薬液等の注入を追加で行い、地山強度の補強を行うもの。
④⑫	注入式フォアポーリング	トンネル掘削面から斜め前方の地山に5m程度の長さのロックボルト等を打設し、セメント等の薬液を併せて注入することにより、前方の地山の安定を高めるトンネル補助工法の一つ。
④⑬	小口径注入式長尺鋼管鏡ボルト・先受工	注入式フォアポーリングと同様にトンネル掘削面から斜め前方の地山にロックボルトをらせん状に打設し、セメント等の薬液を併せて注入することにより、前方の地山の安定を高めるトンネル補助工法の一つ。注入式フォアポーリングよりも長い延長に対応できる。
④⑭	土壌硬度	土壌の固さのこと。その土壌において、植物の根が生育するか否か等を確認するもので、法面植生の工法選定に用いる数値。土壌硬度が高いほど植物の根が生育しにくくなることから、吹付材の厚みが必要となる。
④⑮	植生基材吹付工	植物の種子、肥料、基盤材、接合材等を混合し、金網を併用して法面に吹き付ける工法。
④⑯	土質改良（安定処理工）	盛土等に使用する土に十分な強度がない場合に、セメントや石灰を加えることで強度を強めること。
④⑰	サンドマット	軟弱地盤上に盛土等の土構造物を施工する場合に適用される工法であり、表面に厚さ0.5m～1.2m程度の砂を敷設することで、盛土部の排水の促進や盛土施工時の機械の走行性の確保を図る。